

～ボラセン委員訪問録～

日本語支援ボランティア

あんな活動
みんなと一緒
みつけた!



今回のボラセン委員訪問録は、3つの教室からなる『ボランティアによる、外国人のための日本語教室』をご紹介します。

「東大和・日本語の会」「東大和にほんご友の会」「あつまれ日本語ひろば」の3教室は、それぞれ開催曜日も開催場所も異なりますが、連携をとって活動をしています。それぞれへボラセン委員が分担して訪問させていただきました。

東大和・日本語の会

【「東大和・日本語の会」を訪問して】

活動内容は、南街公民館の2つの教室を使用し、学習者15名・ボランティアスタッフ15名ほどの方々が、約2時間の熱のこもった学習会を開催されていました。

学習者とスタッフ（先生）は基本はマンツーマンで、「日本語能力試験N1～N5の合格」を目標に、多くの教材を活用しています。

東大和市在住の外国の方々には1200名ほどですが、学習者の出身国は、中国・ベトナム・フィリピン・インドネシア・イラン・インド・台湾・イギリス・メキシコなど国際色豊かです。

活動への思いは「奉仕の精神で、学習者の方々の日本での生活レベルの向上をサポートしたい」、「日常会話が豊かになり、自国と日本の橋渡しを目指していけるようになっていただければ」とのことでした。

ボランティア運営委員長 高田 宗臣

あつまれ日本語ひろば

取材日は、朝9時50分に桜が丘市民センターの会場へ行きました。グループのメンバーの方は、代表の西山さん他、全員到着して準備をすでに終わってから歓迎してくださいました。

この日の参加者は3名ということで、ベトナムの方2名と、中国の方1名でした。その後、席を移して代表者他、ボランティアの方に質疑応答と詳細等をお聴きすることができました。ボランティアの中には、日本人男性と結婚し活動されている外国人の方や、大学1年時にインドネシアへ体験学習に行った際に日本語支援を経験された方、韓国の方、中国の方でボランティア活動をされている方など様々でした。

今後については、会の中で、文化交流や生活習慣の交流を進めていきたいと話してくれました。

ボランティア運営委員 田中 正明



東大和・にほんご友の会

私が見学したのは土曜クラスの2か所です。公民館では親子や若い方、図書館ではもう少し年長の方がそれぞれボランティアさんとマンツーマンで学習していました。

私が勝手に想像していた塾のようではなく、アットホームで和やかな雰囲気の中で真剣に取り組んでいました。言葉のわからない異国に来て、仕事や子育てをしながらも学ぼうとする前向きな姿に頭がさがります。そしてこの会を長い間続けてこられた皆さんもすばらしいです。学習の他にもお出かけやパーティーの企画などされているそうですが、今はコロナで自粛中とのこと。早く元通りの活動ができるといいですね。

この会で日本語を学び、「自分の足で外を歩けるだけで幸せ」と言った方の言葉が印象に残りました。今はその方が他の外国人のサポート役になってくれているそうです。

ボランティア運営委員 長澤 妙子